
石岡市
子ども・子育て支援事業計画策定のための
ニーズ調査結果報告書

平成 26 年 3 月

石岡市

目次

I 調査の概要

1. 調査の概要	3
2. 実施概要	3
3. 本報告書の見方	3

II まとめと考察

1. 回答者の属性	7
2. 子どもの育ちをめぐる環境	7
3. 保護者の就労状況	8
4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	9
5. 地域の子育て支援事業の利用状況	11
6. 児童館・児童センターの利用状況	12
7. 子育て支援サービスの利用	12
8. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用状況	13
9. 病児・病後児保育の状況	13
10. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用	14
11. 小学校就学後の放課後の過ごし方	15
12. 職場の両立支援制度の状況	16
13. 児童虐待について	17

III 調査の結果

【就学前児童】

1. 回答者の属性	21
(1) 居住地区	21
(2) 児童年齢	21
(3) きょうだいの人数と末子の年齢	21
(4) 回答者	22
(5) 回答者の配偶関係	22
(6) 子育てを主に行っている人	22
(7) 家族類型	23
2. 子どもの育ちをめぐる環境	24
(1) 子育てに日常的に関わる人・施設	24
(2) 子育てにもっとも影響すると思われる環境	24
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人とその状況	25
(4) 子育ての相談やサポート	27

3. 保護者の就労状況	29
(1) 現在の就労状況	29
(2) フルタイム・パートタイム就労の母親	30
(3) フルタイム・パートタイム就労の父親	31
(4) フルタイムへの転換希望	32
(5) 無業からの就労希望	33
(6) 希望する就労形態	33
(7) 就労開始時の末子年齢	34
4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	35
(1) 定期的な教育・保育事業の利用	35
(2) 現在の教育・保育事業の利用状況	36
(3) 希望の教育・保育事業の利用状況	37
(4) 利用する教育・保育施設の場所	38
(5) 教育・保育施設を利用する理由	38
(6) 教育・保育施設を利用していない理由	39
(7) 今後定期的に利用したい事業	40
(8) 今後利用したい教育・保育施設の場所	41
5. 地域の子育て支援事業の利用状況	42
(1) 地域子育て支援センターの利用	42
(2) 地域子育て支援センターの利用状況	43
(3) 市で実施の類似事業の利用状況	43
(4) よく利用する地域子育て支援センター	44
(5) 地域子育て支援センターを利用しない理由	45
(6) 地域子育て支援センターの利用意向	46
(7) 地域子育て支援センターで充実してほしい事業	47
(8) 地域子育て支援センターへの意見・要望	48
6. 児童館・児童センターの利用状況	49
(1) 児童館・児童センターの利用	49
(2) 児童館・児童センターの利用目的	50
(3) 児童館・児童センターを利用していない理由	50
(4) 今後の児童館・児童センターの利用希望	51
(5) 児童館・児童センターへの意見・要望	53
7. 子育て支援サービスの利用	54
(1) 子育て支援サービスの認知度・利用状況	54
(2) 子育て支援サービスの今後の利用希望	55
(3) 子育て支援サービスの満足度	56

8. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用状況	57
(1) 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用	57
(2) 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用	58
(3) 長期休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用	60
(4) 長期休暇期間中たまに利用したい理由	61
9. 病児・病後児保育の状況	62
(1) 子どもの病気・ケガで保育サービスが利用できなかった経験	62
(2) 対処方法	62
(3) 病児・病後児保育施設の利用	65
(4) 病児・病後児保育の望ましい事業形態	66
(5) 仕事を休んで看病したいか	67
10. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用	68
(1) 不定期の教育・保育事業の利用	68
(2) 不定期の教育・保育事業を利用していない理由	70
(3) 不定期の教育・保育事業の利用希望と利用日数	71
(4) 不定期の教育・保育事業の望ましい事業形態	73
(5) 宿泊を伴う保育の経験と対処方法	74
11. 小学校就学後の放課後の過ごし方	76
(1) 小学校低学年（1～3年生）	76
(2) 小学校高学年（4～6年生）	79
(3) 土曜日の学童保育の利用希望	82
(4) 日曜日・祝日の学童保育の利用希望	83
(5) 長期休暇中の学童保育の利用希望	84
12. 職場の両立支援制度の状況	85
(1) 母親の育児休業制度の取得状況	85
(2) 父親の育児休業制度の取得状況	86
(3) 育児休業取得後の復帰	87
(4) 復帰のタイミング	87
(5) 母親の職場復帰（実際と希望）	88
(6) 父親の職場復帰（実際と希望）	89
(7) 3歳まで休暇が取得できる制度があったら	90
(8) 母親の短時間勤務制度の利用	90
(9) 父親の短時間勤務制度の利用	91
(10) 1歳まで育児休業を取得したいか	91
(11) 育児休業給付や保険料免除の認知	92
(12) 子育て環境や支援への満足度	93

13. 児童虐待について	94
(1) 児童虐待を発見した際の対応	94
(2) 児童虐待の最優先の通告先	94

【小学生児童】

1. 回答者の属性	95
(1) 居住地区	95
(2) 児童年齢	95
(3) 学年	95
(4) きょうだいの人数と末子の年齢	96
(5) 回答者	96
(6) 回答者の配偶関係	96
(7) 子育てを主に行っている人	97
(8) 家族類型	97
2. 子どもの育ちをめぐる環境	98
(1) 子育てに日常的に関わる人・施設	98
(2) 子育てにもっとも影響すると思われる環境	98
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人とその状況	99
(4) 子育ての相談やサポート	101
3. 保護者の就労状況	103
(1) 現在の就労状況	103
(2) フルタイム・パートタイム就労の母親	104
(3) フルタイム・パートタイム就労の父親	105
(4) フルタイムへの転換希望	106
(5) 無業からの就労希望	106
(6) 希望する就労形態	107
(7) 就労開始時の末子年齢	107
4. 児童館・児童センターの利用状況	108
(1) 児童館・児童センターの利用	108
(2) 児童館・児童センターの利用目的	108
(3) 児童館・児童センターを利用していない理由	109
(4) 今後の児童館・児童センターの利用希望	110
(5) 児童館・児童センターへの意見・要望	111
5. 放課後の過ごし方	112
(1) 学童保育の利用	112
(2) 放課後の過ごし方	114

(3) 学童保育の土曜日の利用希望	117
(4) 学童保育の日曜日・祝日の利用希望	118
(5) 学童保育の長期休暇期間中の利用希望	119
6. 職場の両立支援制度の状況	120
(1) 母親の育児休業制度の取得状況	120
(2) 父親の育児休業制度の取得状況	121
(3) 育児休業取得後の復帰	122
(4) 復帰のタイミング	122
(5) 母親の職場復帰（実際と希望）	123
(6) 父親の職場復帰（実際と希望）	123
(7) 3歳まで休暇が取得できる制度があったら	124
(8) 母親の短時間勤務制度の利用	124
(9) 父親の短時間勤務制度の利用	125
(10) 1歳まで育児休業を取得したいか	125
(11) 育児休業給付や保険料免除の認知	126
(12) 子育て環境や支援への満足度	127
7. 児童虐待について	128
(1) 児童虐待を発見した際の対応	128
(2) 児童虐待の最優先の通告先	128

IV 自由意見

1. 自由意見	131
(1) 分野別の分類	131
(2) 自由意見からの抜粋	132
就学前調査	132
小学生調査	140

I 調査の概要

1. 調査の概要

平成 24 年 8 月に子ども・子育て支援法が成立し、平成 27 年度より新たな子ども・子育て支援制度が開始される予定となっています。

このため、新たに「(仮称) 石岡市子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたり、石岡市における子育ての状況や子育て支援への要望・意見などを把握することを目的に、「子ども・子育て支援ニーズ調査」を実施しました。

2. 実施概要

区分	①就学前児童調査 (保護者)	②小学生児童調査 (保護者)
サンプル数 (票)	1,500	1,000
有効回収数 (票)	747	454
有効回収率 (%)	49.8	45.4
調査方法	郵送配布・回収	
調査期間	平成 25 年 11～12 月上旬 (アンケート回答期限は 11 月 29 日)	

3. 本報告書の見方

- ①調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。そのため、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合があります。
- ②複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常 100%を超えます。
- ③図表中の「n=」とは、回答者数を表します。
- ④本文中の「(S A)」とは 1 つだけ選択肢を選ぶことのできる設問である単数回答、「(M A)」とは 2 つ以上の選択肢を選ぶことのできる複数回答、「(F A)」とは自由に意見を記入することのできる自由回答を表します。
- ⑤選択肢の語句が長い場合、本文中や表・グラフでは省略した表現を用いることがあります。

Ⅱ まとめと考察

1. 回答者の属性

(1) きょうだいの人数 【就学前 問3／小学生 問4】

きょうだいの人数は、就学前調査（以下、就学前）では「1人」の4割強、「2人」の約4割で多くなっている。「2人」以上を選択した人は全体の約半数である。

一方、小学生調査（以下、小学生）では「2人」が5割強で最も多く、「1人」は2割弱にとどまる。それに伴い「2人」以上を選択した人も8割近くになっている。

(2) 子育てを主に行っている人 【就学前 問6／小学生 問7】

就学前では「父母ともに」「主に母親」がともに4割台が多いが、小学生では「父母ともに」が5割台半ばで最も多く、次いで「主に母親」が3割台後半となっている。

(3) 家族類型 【就学前 問4・5、問12～14-2／小学生 問5・6、問13～15-2】

調査への回答者と回答者の配偶関係からひとり親かどうか、また、父親と母親の就労形態から8つの家族類型に分類した。（家族類型の詳細については、P23を参照）

就学前では、「タイプB フルタイム×フルタイム」と「タイプD 専業主婦（夫）」がともに3割台前半で多いのに対し、小学生では、「タイプB フルタイム×フルタイム」は就学前とほぼ変わらない3割台前半、「タイプC' フルタイム×パートタイム②」が2割半ば、「タイプD 専業主婦（夫）」2割弱と、就労する母親の割合が増えている。

ちなみに、本市では「タイプE パート×パート①（両親ともにパートタイム就労）」以降の家族類型の該当者はごくわずかである。（そのため、本項での「タイプE パート×パート①」以降の類型についての分析は省略する。）

2. 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子育てに日常的に関わる人・施設 【就学前 問7／小学生 問8】

就学前、小学生ともに「父母ともに」が5割台と最も多い。就学前は次いで「母親」「祖父母」「保育所」がいずれも3割台である。年齢で見ると、3歳以上で「保育所」との回答が増えている。

小学生では、次いで「学校」5割弱、「祖父母」3割弱、「習い事、塾等」2割強と続く。地区別では、旧八郷南中地区と旧有明中地区で「小学校」との回答が5割後半～6割と特に多くなっている。

(2) 子育てにもっとも影響すると思われる環境 【就学前 問8／小学生 問9】

就学前、小学生ともに「家庭」が8割以上を占める。就学前では、次いで「保育所」が35.7%となっている。年齢別では、0・1・2歳で「家庭」との回答が9割を超える。

小学生では、次いで「小学校」が7割弱であり、地区別で見ると、府中中地区、城南中地区、旧八郷南中地区、園部中地区で「学校」との回答が7割以上となっている。園部中では、8割

近くと特に多い。

(3) 子どもをみてもらえる親族・知人とその状況 【就学前 問9～9-1/小学生 問10～10-1】

就学前、小学生ともに、「日常的に」もしくは「緊急時」に「親族に預けることができる」との回答は9割を超えている。家族類型では、就学前、小学生ともに「タイプA ひとり親」で「いずれもない」との回答が1割程度となっている。小学生では、「緊急時にみてもらえる友人・知人がいる」との回答が就学前に比べ多くなっている。

祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況については、小学生に比べ就学前で、親族の身体的・精神的負担を心配する回答が上回る。家族類型で見ると、就学前の「タイプA ひとり親」では「安心して子どもをみてもらえる」との回答は4割台と、他の家族類型に比べ特に少なく、それに対応するように身体的・精神的負担を心配する回答や「心苦しい」との回答が他の家族類型を上回る。

(4) 子育ての相談やサポート 【就学前 問10～10-1/小学生 問11～11-1】

就学前、小学生ともに、「いる／ある」が9割を超える。また、気軽に相談できる先は、「配偶者」「祖父母等の親族」「友人」など身近な人との回答が多い。

家族類型で見ると、就学前ではタイプA ひとり親を除き「配偶者」との回答が8割～9割と最も多い。また、タイプD 専業主婦（夫）を除く類型では「保育所や幼稚園の先生」、タイプA ひとり親とタイプB フルタイム×フルタイムでは「職場の知人」がいずれも4割台となっている。タイプD 専業主婦（夫）では、「地域子育て支援センターの先生」「保健センターの保健師」が他の家族類型に比べやや多く、就労している人は相談先が多岐にわたる一方で、専業主婦（夫）は、家族や友人が中心であるものの、専門機関への相談も多い傾向にある。

小学生では、タイプA ひとり親のみ「友人」、それ以外の家族類型では「配偶者」が最も多い。また、タイプA ひとり親とタイプC フルタイム×パートタイム①では「小学校の先生」が4割近くと他の類型に比べ多くなっている。

3. 保護者の就労状況

(1) 現在の就労状況 【就学前 問12/小学生 問13】

母親の就労状況について、就学前では「以前は就労していたが、現在は就労していない」との回答が3割台半ばと最も多く、「フルタイムで就労中」と「フルタイム以外の就労」を合わせた『就労している』は6割を超える。小学生では、『就労している』人は7割半ばであり、就学前を上回る。

父親については、就学前、小学生ともに「フルタイムで就労中」が8割台後半で最も多く、他の就業形態を選択した人はごくわずかである。

(2) フルタイム・パートタイム就労の保護者 【就学前 問12-1/小学生 問13-1】

母親の勤務の状況について、就学前、小学生ともに、週あたりの就労日数は5日、1日あた

りの就労時間は8時間が最も多くなっている。家を出る時間はともに8時台が約半数を占めており、家を出る時間は7時から9時台に集中している。帰宅時間は、いずれも18時台が最も多いが、小学生では14～15時台との回答が就学前に比べ多い。土日就労の有無については、無回答が多いものの、就学前、小学生ともに半数近い人は土曜の就労ありと回答している。

父親については、就学前、小学生いずれも5日が最も多く5割台、6日が3割である。1日あたりの就労時間は8時間がともに4割台と最も多いが、9時間以上との回答が半数近くを占めている。さらに、12時間以上との回答がともに1割台である。家を出る時間は就学前、小学生ともに7時台が4割台、8時台が3割程度を占めており、7時以前～8時台に集中している。帰宅時間は、いずれも18時～20時台が半数以上と集中しているが、4人に1人は21時以降と回答している。土日就労の有無については、無回答が多いものの、就学前、小学生ともに6割以上の方が「土曜」の就労ありと回答しており、全体として母親に比べ父親の長時間労働と長い通勤時間の実態がうかがえる。

(3) 就労形態の転換や就労の希望 【就学前 問 13～14-2/小学生 問 14～15-2】

フルタイム以外で就労する母親に、フルタイムへの転換希望をたずねたところ、就学前、小学生ともに「フルタイム以外での就労を続けることを希望」が半数近くを占めている。一方で、3割近い人が「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」としている。

現在働いていない母親に就労についての希望を聞いたところ、就学前では「1年より先に、就労したい」が約半数を占め、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」とあわせた『就労したい』は7割を超える。小学生では、「子育てや家事に専念したい」が約3割と就学前を上回り、就労の希望は小学生に比べ就学前の方が強くなっている。

希望する就労形態は、「フルタイム以外」が就学前では6割半ば、小学生では8割以上を占める。希望の1週あたりの日数は、就学前、小学生ともに8割程度の人が4～5日と回答。また、希望の1日あたりの就労時間についても両者ともに7割程度の人が5～6時間と回答している。

「1年より先に、就労したい」と回答した人に、末子が何歳になった頃に就労を始めたいかをたずねたところ、就学前では3歳が3割半ば、4歳が約2割、小学生では10歳が2割弱、12歳以上が1割半ばの順で多くなっている。

(父親については、該当する設問の回答者数が非常に少ないため記述を省略した。)

4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

(1) 定期的な教育・保育事業の利用 【就学前 問 15～15-1】

「利用している」が6割弱で「利用していない」を上回るが、年齢別では、0・1・2歳では「利用していない」が約7割を占めるが、3歳以上では、「利用している」が9割近くで、ほとんどの人が何らかの教育・保育事業を利用している。

利用している施設・事業は、「認可保育所」が5割台、「幼稚園」が約3割となっている。地区別では、「認定こども園」が最も多い旧有明中地区を除き、「認可保育所」が最も多い。

地区別でみると、旧石岡市の4地区では、旧八郷町の4地区に比べて「幼稚園」の割合が多

くなっている。年齢では、0・1・2歳では「認可保育所」が7割を占めるのに対し、3歳以上は「認可保育所」が5割弱、「幼稚園」が4割弱である。

(2) 教育・保育事業の利用状況（現在と希望） 【就学前 問 15-2】

現在の利用状況で、1日あたりの利用時間は6～8時間台、利用開始時間は8～9時台、利用終了時間は15～18時台に集中している。

希望では無回答が多いものの、1日あたりの利用時間は8時間台をピークに6～10時間台、利用開始は8～9時台、終了時間は17時台が15～18時台に集中しており、現在の利用とほとんど差は見られない。

(3) 教育・保育施設を利用する理由、利用していない理由 【就学前 問 15-4,5】

利用する理由は、「子どもの教育や発達のため」と「現在就労しているため」主なものである。年齢別でみると、0・1・2歳では「現在就労しているため」、3歳以上では「子供の教育や発達のため」がそれぞれ最も多くなっている。

利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため」「利用する必要がない」が主なものである。年齢別では、0・1・2歳では7割近かった「子どもがまだ小さいため」が3歳以上では約4割、「利用する必要がない」も0・1・2歳が3歳以上を上回る。反対に、3歳以上が0・1・2歳を上回るのは、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」「経済的な理由で事業を利用できない」となっている。

「子どもがまだ小さいため」と回答した人に、利用を開始したい年齢を聞いたところ、3歳との回答が半数を占める。

(4) 今後定期的に利用したい事業 【就学前 問 16】

現在の利用に関わらず、今後定期的に利用したい事業をきいたところ、「認可保育所」と「幼稚園」がともに5割程度と他の項目を大きく上回る。家族類型でみると、タイプA ひとり親、タイプB フルタイム×フルタイム、タイプC フルタイム×パートタイム①では「認可保育所」が6～7割で最も多いのに対し、タイプC' フルタイム×パートタイム②とタイプD 専業主婦（夫）では「幼稚園」が最も多くなっている。「幼稚園の預かり保育」についても、タイプC' フルタイム×パートタイム②とタイプD 専業主婦（夫）で希望が多い。

5. 地域の子育て支援事業の利用状況

(1) 地域子育て支援センターの利用 【就学前 問 17、17-2】

「利用していない」が8割近くを占める。地区別では、有明中地区、旧柿岡中地区、園部中地区で「地域子育て支援センターを利用している」との回答が2割を超え、旧石岡市の4地区に比べ多くなっている。家族類型では、タイプF 無業×無業のみ「地域子育て支援センターを利用している」が2割を超え多くなっている。「利用していない」が最も多いのは、タイプC フルタイム×パートタイム①である。

地域子育て支援センターを利用している人に、利用状況をたずねたところ、週あたりの利用回数は2回が最も多く、全体の4割程度が1～3回と回答している。月あたりの回数では、月1回との回答が最も多く、全体の半数近くが月1～3回の間に集中している。

利用しない理由については、「保育所や幼稚園、認可外保育施設等に通わせているため必要がない」が6割を占める。家族類型では、タイプA ひとり親のみ「そのような場所があることを知らなかった」が2割台と群を抜いて多く、ひとり親家庭への適切な情報提供が望まれる。

(2) よく利用する地域子育て支援センター 【就学前 問 17-1】

よく利用する地域子育て支援センターについては、「石岡市地域子育て支援センター（石岡市立やさと中央保育所）」との回答が5割以上と最も多い。次いで、「ばらきの丘（ひかり保育園）」「地域子育て支援センター（泉ヶ丘保育園）」の順である。地区別でみると、旧八郷南中地区を除き、すべての地区で「石岡市地域子育て支援センター（石岡市立やさと中央保育所）」が最も多い。（府中中地区では「ばらきの丘（ひかり保育園）」が同率）国府中地区を除く旧石岡市地区の3地区では、「ばらきの丘（ひかり保育園）」が3～4割台と旧八郷町地区に比べ多くなっている。

(3) 地域子育て支援センターの今後の利用意向 【就学前 問 17-3】

地域子育て支援施設の今後の利用意向については、「利用日数を増やしたい」＋「今後利用したい」を合わせた『利用したい』は3割程度となっている。家族類型でみると、タイプD 専業主婦（夫）のみ『利用したい』が5割近くと特に希望が多くなっている。

すでに利用している人に今後増やしたい日数をたずねたところ、週1～2日または月2～4回、今後利用したい人では、週1回または、月1～3日との回答が多かった。

(4) 地域子育て支援センターで充実してほしい事業 【就学前 問 17-4】

「子育て親子の交流の場の提供と交流の促進」が5割と他の項目に比べ特に多い。家族類型でみると、いずれの類型でも「子育て親子の交流の場の提供と交流の促進」が最も多いが、タイプA ひとり親、タイプB フルタイム×フルタイム、タイプD 専業主婦（夫）では、「子育て等に関する相談、援助の実施」、タイプB フルタイム×フルタイムを除く類型では、「利用者支援の実施」が多くなっている。

6. 児童館・児童センターの利用状況

(1) 児童館・児童センターの利用と今後の希望 【就学前 問 18/小学生 問 16】

「利用していない」が就学前、小学生ともに9割近くを占める。地区別では、「1週当たり〇回もしくは1ヶ月当たり〇回程度」との回答は、就学前では石岡中地区と府中中地区、小学生では府中中地区で1割を超え、他の地区に比べ多くなっている。現在の利用回数は、就学前では月に1回、小学生では週に1回との回答が多い。

今後の利用希望は、就学前で5割、小学生で7割近い人が「今後も利用する予定はない」としているが、「利用していないが、今後利用したい」との回答は就学前の3割が、小学生を上回り、希望する利用回数は、月に1～2回が半数を占める。就学前で今後の利用希望が高くなっている。

(2) 児童館・児童センターの利用目的と利用していない理由 【就学前問18-12/小学生問16-12】

児童館・児童センターを利用する目的は、「遊びに行く」が就学前、小学生ともに最も多い。「親子の交流」「親の息抜き・リフレッシュ」との回答は就学前が小学生を上回り、就学前の年齢別では、3歳以上に比べ0・1・2歳で多い。

児童館・児童センターを利用していない理由は、就学前では「児童館・児童センターのことを知らなかった」、小学生は「自宅から遠い」が最も多い。就学前の地区別では、旧八郷町地区で「児童館・児童センターのことを知らなかった」が5割弱～6割強と多く、旧石岡市地区では「利用したい時間帯が合わない」が旧八郷町地区に比べ多くなっており、地区によりその利用していない理由は異なる。

小学生の地区別では、旧柿岡中地区と旧有明中地区では「児童館・児童センターのことを知らなかった」、府中中地区、城南中地区、園部中地区では「自宅から遠い」が最も多い。

7. 子育て支援サービスの利用 【就学前 問 19】

「利用したことがある」が多いのは、「保健センターの乳幼児健康診査」の9割強、「保健センターの新生児訪問」の8割強で、他の事業に比べ圧倒的に多い。「知らなかった」が多いのは、「保健センターの親子クッキング」「幼稚園の親子ひろば」「市HPの各地地域子育て支援センターの予定表」などでいずれも3割台後半である。

今後の利用希望は、無回答がやや多いが、すべての事業で「利用したい」が「利用したくない」を上回る。利用の多かった「保健センターの乳幼児健康診査」「保健センターの新生児訪問」は利用希望も高い。反対に「知らなかった」という回答の多かった「保健センターの親子クッキング」「幼稚園の親子ひろば」「市HPの各地地域子育て支援センターの予定表」についても、「利用したい」は5割を超える。

利用した人に事業の満足度をたずねたところ、いずれの事業も「良かった」が6割以上を占めるが、「電話相談」と「離乳食教室」のみ「どちらともいえない」「良くなかった」が他の事業に比べやや多い。

8. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用状況

【就学前 問 20～21】

土曜の利用については、「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」を合わせた『利用したい』は3割台半ばとなっている。家族類型でみると、「ほぼ毎週利用したい」はタイプA ひとり親、「月に1～2回は利用したい」はタイプB フルタイム×フルタイムとタイプC フルタイム×パートタイム①で特に多い。

日曜・祝日では、『利用したい』は土曜日より低い2割弱である。家族類型では、タイプA ひとり親とタイプB フルタイム×フルタイムで「月に1～2回は利用したい」が2割台とやや多くなっている。

土曜、日曜・祝日で「月に1～2回は利用したい」とした人に、たまに利用したい理由をたずねたところ、「月に数回仕事が入るため」が6割台後半と最も多い。家族類型では、タイプA ひとり親、タイプB フルタイム×フルタイム、タイプC フルタイム×パートタイム①は「月に数回仕事が入るため」、タイプD 専業主婦（夫）では「息抜きのため」が、他の類型に比べて多い。

9. 病児・病後児保育の状況

(1) 子どもの病気・ケガで保育サービスが利用できなかった経験 【就学前 問 22～22-1】

「あった」が7割を占める。年齢では3歳以上よりも0・1・2歳で「あった」が多くなっている。

その対処方法については、「母親が仕事等を休んだ」の7割台が群を抜いて多く、「親族・知人に子どもをみてもらった」の4割台、「就労していない方がみた」「父親が仕事等を休んだ」の2割台が主なところである。家族類型では、タイプA ひとり親、タイプB フルタイム×フルタイム、タイプC フルタイム×パートタイム①は「母親が仕事等を休んだ」、タイプD 専業主婦（夫）は「就労していない方がみた」がいずれも8割以上と多いが、タイプB フルタイム×フルタイムでは「父親が仕事等を休んだ」も4割近くと他の類型に比べ多くなっている。

(2) 病児・病後児保育施設の利用 【就学前 問 22-2～4】

「利用したいとは思わない」が「できれば利用したい」を上回るが、家族類型ではタイプA ひとり親のみ「できれば利用したい」が「利用したいとは思わない」を上回る。

そうした施設の望ましい事業形態については、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が8割近くで最も多い。

「利用したいとは思わない」と回答した人にそう思う理由をたずねたところ、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」と「親が仕事を休んで対応する」に回答が集中した。

10. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

(1) 不定期の教育・保育事業の利用 【就学前 問 23～23-1】

「利用していない」が8割以上を占めるが、家族類型でみると、タイプC'フルタイム×パートタイム②のみ「幼稚園の預かり保育（不定期利用）」と「保育所や幼稚園の一時預かり」の利用が他の類型に比べ多くなっている。

利用していない理由については、「特に利用する必要がない」が8割と圧倒的に多いが、家族類型でみると、タイプA ひとり親とタイプD 専業主婦（夫）のみ「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が2割台と特に多いことから、ひとり親と専業主婦への適切な情報提供が望まれる。

(2) 不定期の教育・保育事業の利用希望 【就学前 問 24】

「利用したい」は約4割で、家族類型では、タイプC フルタイム×パートタイム①、タイプC'フルタイム×パートタイム②、タイプD 専業主婦（夫）で「利用したい」が4割以上と多くなっている。

その利用目的は、「私用やリフレッシュ目的」と「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が主なものである。家族類型では、タイプD 専業主婦（夫）では「私用やリフレッシュ目的」、タイプC フルタイム×パートタイム①、タイプC'フルタイム×パートタイム②では「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が多くなっている。

(3) 不定期の教育・保育事業の望ましい事業形態 【就学前 問 24-1】

利用したいと回答した人に、その望ましい事業形態をたずねたところ、「大規模施設で子どもを保育する事業」が7割、「小規模施設で子どもを保育する事業」が4割台後半である。

家族類型では、タイプA ひとり親、タイプC フルタイム×パートタイム①、タイプC'フルタイム×パートタイム②で「大規模施設で子どもを保育する事業」が8割以上、タイプB フルタイム×フルタイムのみ「小規模施設で子どもを保育する事業」が5割以上と多くなっている。

(4) 宿泊を伴う保育の経験と対処方法 【就学前 問 25～25-1】

「あった」が16.5%であり、その対処方法は「親族・知人にみてもらった」が9割とほとんどだが、「仕方なく子どもを同行させた」も1割弱いる。家族類型でみると、タイプA ひとり親とタイプD 専業主婦（夫）で「仕方なく子どもを同行させた」が2割を超え多い。

「親族・知人にみてもらった」と回答した人に、その困難度をきいたところ、「非常に困難」が約1割、「どちらかというところ」が3割強となっている。

家族類型では、タイプD 専業主婦（夫）で「非常に困難」が2割強、「どちらかというところ」が約4割と「特に困難ではない」を上回る。

11. 小学校就学後の放課後の過ごし方

(1) 学童保育の利用 【小学生 問 17~16-3】

「利用している」との回答は約2割で、地区別にみると石岡中地区、城南中地区、旧柿岡中地区で2割を超え、他の地区に比べ多くなっている。学年では、低学年では約3割が「利用している」のに対し、高学年では1割程度である。利用回数は、1週あたり5日が約6割、1日あたり2~3時間が8割近くとなっている。

利用する理由は、ほぼ全員が「現在就労しているため」と回答している。利用していない理由は、「利用する必要がない」「祖父母や親戚の人がみている」がともに3割台と多い。家族類型でみると、タイプA ひとり親では「時間帯の条件が合わない」「経済的な理由で利用できない」、タイプB フルタイム×フルタイムでは「放課後は習い事をしている」「短時間なら、子どもだけでも大丈夫」、タイプC' フルタイム×パートタイム②では「放課後は習い事をしている」が他の家族類型に比べ多くなっている。

(2) 放課後を過ごさせたい場所 【就学前 問 26~27/小学生 問 18】

「自宅」が約7割、「習い事」が6割近くと多い。学年でみると、「公立小学校の学童保育」は低学年が高学年を、「自宅」は高学年が低学年をそれぞれ上回る。

家族類型では、いずれも「自宅」が最も多くなっており、タイプD 専業主婦(夫)では9割を超える。次いで、タイプA ひとり親を除く類型は、「習い事」が5~7割台と多い。タイプA ひとり親では、「習い事」が3割台と他の類型に比べ大幅に少ないが、「公立小学校の学童保育」が他の類型を大きく上回る。

なお、同じ質問を就学前で5歳以上の子どもをもつ保護者に限定して、低学年・高学年それぞれについてたずねたところ、低学年・高学年いずれも「自宅」が4割台で最も多く、次いで、「習い事」「祖父母宅や友人・知人宅」「公立小学校の学童保育」などが多くなっている。

(3) 土・日・祝日、長期休暇中の学童保育の利用希望 【就学前 問 28~29/小学生 問 19~20】

「利用する必要はない」が半数近くと最も多いが、「高学年になっても利用したい」との回答も3割以上となっている。家族類型では、タイプBからタイプC'までは「利用する必要はない」が最も多いが、タイプAひとり親のみ「高学年になっても利用したい」が6割台と群を抜いて多い。

日曜・祝日の利用希望については、無回答が多いものの、2割弱は「高学年になっても利用したい」としている。家族類型では、こちらもタイプAひとり親のみ4割と希望が高い。

長期休暇中の利用希望は、2割強が「高学年になっても利用したい」としている。家族類型では、タイプAひとり親とタイプBフルタイム×フルタイムで、ともに3割台と希望が多い。

また、(2)と同様に、就学前5歳以上保護者に聞いたところ、土曜、日・祝日、長期休暇中の学童保育の利用希望が、いずれも小学生を上回る。

12. 職場の両立支援制度の状況

(1) 育児休業制度の取得状況 【就学前 問 30/小学生 問 21】

母親の育児休業の取得については、就学前、小学生ともに「働いていなかった」が5割近くと最も多いが、「取得した（取得中である）」は就学前が小学生を上回る。家族類型でみると、「取得した（取得中である）」はタイプBフルタイム×フルタイムのみ7割弱であり、他の類型は3割以下にとどまっている。同じタイプBフルタイム×フルタイムでも、小学生では「取得した（取得中である）」が4割台半ばと差がある。

育児休業を取得していない理由については、就学前、小学生ともに「子育てや家事に専念するため退職した」の3割台が最も多く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が2割弱となっている。就学前では「経済的に苦しくなる」や「仕事に戻るのが難しそうだった」も比較的多くあげられた。

父親の育児休業の取得は、就学前、小学生ともに「取得していない」が8割以上を占め、「取得した（取得中である）」はわずか1%台である。取得していない理由は、「制度を利用する必要がなかった」「仕事が忙しかった」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」などが主なものであるが、就学前では、「経済的に苦しくなる」「配偶者が育児休業制度を利用した」も多い。フルタイムでは、育児休業の取得が進みつつあるものの、パートタイムでは取得が進んでいない現状が見受けられる。企業・事業所への職場の両立支援に対する理解と意識啓発、育児休業を取得しやすい雰囲気づくり、父親の育児休業取得の促進に対する支援が求められる。また、同時に就学前への経済的支援も望まれる。

(2) 育児休業取得後の復帰と短時間勤務制度の利用

【就学前 問 31~31-2、31-4/小学生 問 22~22-2、22-4】

母親の育児休業取得後の復帰については、就学前、小学生ともに「育児休業後、職場に復帰した」が最も多い。復帰のタイミングが年度初めの保育所入所に合わせたタイミングであったかどうかについては、「それ以外だった」との回答がともに7割台後半である。

母親の職場復帰時期は、就学前、小学生ともに現実では6ヶ月～1歳未満、1歳～1歳6ヶ月未満に集中しているが、希望は1歳～1歳6ヶ月未満と3歳以上で多くなっている。

職場復帰後に短時間勤務制度を利用したかどうかは、「利用したかったが、利用しなかった」が就学前、小学生ともに4割程度となっている。利用しなかった理由については、いずれも「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」「仕事が忙しかった」などが主なものであるが、就学前では、「短時間勤務にすると給与が減額される」が小学生の回答を大きく上回る。

(父親については、該当する設問の回答者数が非常に少ないため記述を省略した。)

(3) 育児休業給付や保険料免除の認知 【就学前 問 32/小学生 問 23】

就学前、小学生ともに「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が最も多いが、その割合は小学生5割弱が就学前3割台半ばを上回る。次いで多いのは「育児休業給付のみ知っていた」である。家族類型でみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」は

ともにタイプBフルタイム×フルタイムが他の類型を大きく上回る。「いずれも知らなかった」は、就学前、小学生ともにタイプA ひとり親とタイプD 専業主婦（夫）に多くなっている。

（4）子育て環境や支援への満足度 【就学前 問33／小学生 問24】

就学前、小学生ともに「3（ふつう）」との回答が最も多いが、「2（やや満足度が低い）」と「1（満足度が低い）」との回答は、どちらも小学生が就学前を大きく上回り、半数以上が『不満』（「2（やや満足度が低い）」＋「1（満足度が低い）」）としている。

就学前の地区別では、旧八郷南中地区で『不満』、旧有明中地区で『満足』（「4（やや満足度が高い）」＋「5（満足度が高い）」）の割合が多い。家族類型でみると、「1（満足度が低い）」との回答が最も多いタイプA ひとり親で、4割近くが『不満』としている。

小学生の地区別でみると、国府中地区で『満足』が特に多い。反対に園部中地区、旧柿岡中地区では『不満』が6割を超えて多くなっている。家族類型では、タイプC フルタイム×パートタイム①とタイプD 専業主婦（夫）で6割以上と特に多い。

就学前に比べて小学生児童保護者の子育て環境や支援への満足度が低い。一方で、就学前、小学生ともに地区によって満足度に大きな差があることから、比較的満足度の高い地区（就学前では旧有明中地区、小学生では国府中地区）の事業や取り組みから改善の糸口探すことも有効と考えられる。

13. 児童虐待について 【就学前 問34～35／小学生 問25～26】

就学前、小学生ともに、通告の義務があることを「知っている」が「知らなかった」を大きく上回る。通告した人の情報が秘匿されることについて、同様に「知っている」が「知らなかった」を上回る。

児童虐待の最優先の通告先については、就学前、小学生ともに、「児童相談所」「警察署」「子ども福祉課」「いばらき虐待ホットライン」の順となっている。